演習 II

科目ナンバリング　SEM-302
必修　　2単位

小林　成弘

1. 授業の概要（ねらい）

世界経済は2007年から2009年頃にかけて、アメリカのサブプライム・ローン問題をきっかけに「100年に一度」と言われる国際金融危機に見舞われました。バブルの崩壊は一時の景気後退にとどまらず、経済社会が長年に亘って築き上げ培ってきた様々な経済基盤や社会基盤を根底から覆し、時に戦争を引き起こす原因にもなりかねない極めて深刻な問題です。日本も平成バブルを経験しましたが、その後のバブル崩壊で日本の経済力を支えてきた製造業がリストラの嵐に巻き込まれ、「3つの過剰」（雇用、設備、債務）処理に追われて「選択と集中」の名のもと業務の縮小が進みました。その結果、日本の国際競争力は急速に失われて「失われた20年」といわれる暗く長いトンネルの闇に入り込んでいきました。

そこで春期の「演習」では、講義と輪読発表・ディスカッションを織り交ぜながら、世界の歴史上これまで幾度となく世界各地で繰り返されてきたバブルの発生と崩壊、金融と経済危機の問題を振り返り、バブルの発生の歴史と教訓を学んでいきます。また秋期は、1980年代の金融自由化の流れのなか世界各地で頻発するようになった国際規模の金融危機や世界の金融再編問題、および景気判断（景気指標の見方）を取り上げる予定です。

2. 授業の到達目標

国際経済社会が経験した様々な金融恐慌事件を通してバブル発生の原因やメカニズムを探るとともに、特に1980年代以降急速に進んだ金融自由化が金融ビジネスの膨張と経済のマネーゲーム化や格差の拡大をもたらし、世界規模の金融危機を頻発させる要因になった経緯を理解します。

3. 成績評価の方法および基準

出席状況、授業への取り組み姿勢、授業内発表の内容、期末レポートなどによる総合評価で採点します。なお、期末レポートについては以下の点に十分注意して取り組んでください。

①一定の出席率を満たさない学生のレポートは受け付けません
②ネットなどからのコピー＆ペーストなど、論文作成上の基本ルールを無視したレポートは評価対象としません

4. 教科書・参考文献

教科書
テキストは特に指定しませんが、参考図書、参考文献は授業の都度紹介します。

参考文献
新家 義貴　『予測の達人が教える 経済指標の読み方』
（日本経済新聞出版社）

5. 準備学修の内容

講義の際に紹介する参考文献等をできるだけ手に取って読んで理解を深めて下さい。

6. その他履修上の注意事項

単に授業を聞くという受け身の姿勢ではなく、講義を通して自分の関心や疑問を掘り起こし、原典や関連文献または統計データに直接あたって調べたり確認してみるといった積極的な姿勢で取り組むことを期待します。

7. 授業内容

【第1回】　ガイダンス／輪読担当分け
【第2回】　講義①（足元の金融・経済動向）
【第3回】　講義②
【第4回】　講義③
【第5回】　輪読発表①
【第6回】　輪読発表②
【第7回】　輪読発表③
【第8回】　輪読発表④
【第9回】　DVD（リーマンショック）
【第10回】　輪読発表⑤
【第11回】　輪読発表⑥
【第12回】　輪読発表⑦
【第13回】　輪読発表⑧
【第14回】　DVD（平成バブル）
【第15回】　まとめ